

| 学校教育目標     |                       | 夢と希望をもち 笑顔あふれる 幸せな学校   |   | 重点目標        | よくきき、根拠をもとに考える子どもの育成   |         |  |   |
|------------|-----------------------|--|---|-------------|--|---------|--|---|
| 評価計画       |                       |  |   | 自己評価        |  | 学校関係者評価 |  | 改善計画  |
| 重点目標       | 目標達成のための方策(取組指標)      | 成果指標   | 評価  | 結果(成果○と課題△) |  | 評価      | コメント   | 次年度における改善策(案)   |
|            |                       |  |   | 重点目標        | 目標達成のための方策(取組指標)   |         |  |   |
| 重点目標に関する評価 | 確かな学力づくり              | ○各自の目標を明確にしたスキルアップタイム(音読、書き、計算)の時間を設定し、伸びを可視化する。<br>○毎週金曜日に、1・2年生担任とその他の職員による4・5年生の補充学習を行う。                  | ○毎月の検定「音読、漢字、計算」<br>学級平均80点以上<br>○市販テスト「知識・技能」<br>正答率80%以上  | 3           | ○目標をもって取り組ませたことや結果をすぐに 掲示したことで計算力や漢字を書く力が向上した。<br>○個に応じた補充学習を行ったことで、学習に向かう姿勢が高まってきた。                             | A       | ・学校の自己評価は適切である。<br>・スキルアップタイムの取組は素晴らしいと思う。継続してほしい。<br>・スキルアップタイムでは、一人一人の目標を見える化し、努力を積み重ねるよさを、子供たち自身が実感することで、毎月の検定で確実な成果が表れている。<br>・スキルアップタイムは児童が自主的に行っており、中友小独自の学習だと感じた。<br>・学年の垣根を越えて競い合っているので、向上心が芽生えていると思われる。<br>・言葉で説明することは難しいが短い文言からでも繰り返すことで備わってくると思われる。<br>・家庭学習については、小中の連携した取組が必要。<br>・読書習慣の向上は素晴らしく、よく取り組まれている。 | ・スキルアップタイムは、学習プリントだけでなく、タブレットドリルも活用し、より個に応じた取組にしていく。<br>・単元を通して、「思考する時間」「鍛える時間」を明確にし、軽重を付けた授業を行う。<br>・家庭学習強調週間の取組が充実するように、学習例を示したり、回数を検討したりしていく。また、懇談会やお便り等で家庭学習強調週間の取組の意義などを発信し、連携を強化していく。<br>・読書の時間を設けるなど、子供たちが日常的に読書に取り組めるようにする。 |
|            | 授業づくり                 | ○根拠に線を引き、考えを書く、話す活動を位置づける。<br>○問題解決のプロセスをふまえた授業づくり   | ○児童評価：パワーアップカード<br>「大事な言葉に線を引き考えてつくる」<br>平均3.0以上(4段階評定尺度)   | 3           | ○全学級で根拠に線を引く取組を徹底したことで、大事な言葉や数に着目できるようになってきた。<br>○校内研と関連づけたことで、問題解決のプロセスを通じた授業の展開ができてきた。                         | A       |  |   |
|            | 家庭学習の習慣化              | ○家庭学習のすすめを活用して、家庭学習強調週間を年間5回実施する。<br>○宿題忘れ「0」週間を年間5回実施する。  | ○家庭学習記録ノート「○」の数 平均5以上<br>○子供の宿題提出率：100%   | 3           | ○「集中してできた」と回答する子供が増えた。<br>△家庭学習の内容面の検討が必要である。<br>△目標をしっかりとめてない子供たちへの指導の手立てが不十分であった。                              | A       |  |   |
|            | 読書習慣の向上               | ○ボランティアによる読み聞かせや家読の日、電子図書館の活用を通して、読書意欲を高め、習慣化を図る。<br>○各学級ごとに、活用状況をシールで可視化する。                                 | ○図書貸出平均冊数<br>・低学年：120冊 中学年90冊 高学年70冊<br>○指定日の図書室活用状況 100%   | 3           | ○低・中学年は図書室の取組もあり、概ね達成できた。<br>△貸し出し冊数や読書量に個人差があった。読書をする楽しさを実感できていない児童が多い。   | A       |  |   |
| 豊かな心づくり    | 思いやりの心の育成             | ○黙って、時間いっぱいの清掃活動の徹底。<br>○スリッパ並べができてトイレの表彰。<br>○1人1鉢運動の取組。  | ○教師評価：教育課程評価「清掃活動」「スリッパ」「1人1鉢運動」の項目 平均3.0以上(4段階評定尺度)  | 3           | ○3つの取組を全学級で共通実践を行ったことで、教師も子供も取組への意識が高まった。  | A       | ・学校の自己評価は適切である。<br>・きれいな教室、学校で生活することは気持ちが良い。美しい環境で活動できる喜びを感じるよう指導してほしい。  | ・中友タイムの回数を確保し、高学年のリーダー性をより高める活動にしていき、上級生の意識を高める。  |
|            | 規範意識の向上               | ○ほめるの取組を定期的に行い、友達の頑張りやよさ見つけを行い、給食の時間に放送する。<br>○中友タイム(縦割り活動)を月2回行い、下級生を思いやる態度や上級生を敬う態度を育てる。                   | ○教師評価：教育課程評価「ほめる」の項目 平均3.0以上(4段階評定尺度)<br>○教師評価：教育課程評価「中友タイム」の項目 平均3.0以上(4段階評定尺度)                                    | 3           | ○「中友タイム」は高学年の企画運営、リーダーシップ、関係づくりに効果的であった。<br>△ほめるの回数が少なく、日常的な取組にすることができなかった。                                      | A       | ・1年間を見据えて1鉢運動を行っていることは良いと感じた。<br>・中友小4ルールでは廊下に花を置いたり、標語を書いたり工夫されている。<br>・異学年交流は効果的。児童会活動との関連を図るといい。  | ・「ほめる」だけでなく「ほかほかポスト」の活動を充実させ、友達とのよりよい関係づくりの日常化を図る。<br>・児童会と連携し、4ルールを作り、児童と教師が一体となって行う取組にしていく。<br>・規範意識の向上させるために、家庭への呼びかけを行っていく。<br>・総合的な学習の時間の教育課程を見直し、より子供が主体的に取り組むことができるようにしていく。  |
|            | ESDの充実                | ○子ども民生委員活動等の福祉教育を中核に子ども主体のESDを行う。  | ○教師評価：教育課程評価「ESDの充実」の項目 平均3.0以上(4段階評定尺度)  | 4           | ○子供たちの課題や思いに応じて実践が可能になり、子供たちが主体的に取り組むようになってきた。   | A       | ・児童会等、集団での取組があると成果があると思う。<br>・能登半島地震に対して児童が何ができるかを考え、日本赤十字社に届けたと説明を受け感心した。   |   |
|            | 運動能力の向上               | ○体育科の学習で十分に体を動かし、運動量を確保する。<br>・活動量60%(27分)以上の確保<br>○体力テストで課題のあった運動を体育の時間に計画的に位置づける。                          | ○教師評価：教育活動評価「体育の学習」の項目 平均3.0以上(4段階評定尺度)   | 3           | ○体育の運動量は確保できている。<br>△主運動と体力テストとの関係付けが不十分であったため、計画的に位置づけることができなかった。   | A       | ・学校の自己評価は適切である。<br>・体育の運動量が確保できたことは素晴らしい。<br>・教師も一緒に外遊びをすることは、子供たちもより楽しめることに加え、信頼関係の向上につながる。   | ・体力テスト課題に応じた単元や運動例を整理していく。<br>・学級遊び等を計画的に位置づけ、より多くの子供たちが元気に外遊びに親しめるようにしていく。   |
| いじめ防止      | 早期発見・早期解消             | ○「かがやき」「あおぞら」「あおぞら2」を活用した人権・同和教育を行う。<br>○週1回以上、教師とみんなで遊ぶ日を設定する。  | ○学校生活アンケート：「教師との関係」<br>→項目平均1.0以上(上限1.5 下限-1.5)<br>○生活アンケートいじめの訴え 0   | 4           | ○教師と子供がともに遊ぶことを通じて、教師との関係や子供相互の関係がよくなり、支持的な学級風土ができてきた。<br>○いじめの訴えが0は達成できなかったが、学期が進むごとに減少した。                      | A       | ・学校の自己評価は適切である。<br>・組織的に早期発見・解消に対応されている。小中でSC・SSWの連携体制ができてきたと思う。<br>・今後SNSに関するトラブルの対応について、小中共通の研修会を実施できればよい。<br>・スマホやSNS関係については家庭教育面が大きく大変難しい課題。小中連携して共通ルールを作る必要がある。   | ・SNS関係は大正小、松原中の教職員だけでなく、PTAとも連携をした取組を行っていく。<br>・家庭や地域と連携し、日常的に子供の状況を把握し、必要に応じて教育相談を実施する。  |
|            | 体力の向上                 | ○休み時間の外遊びを推奨する。  | ○外遊びをした児童80%以上(帰りの会で確認)   | 4           | ○外遊びをする子供が多く、休み時間は運動場が子供でいっぱいであった。   | A       |  |   |
| 不登校防止      | 不登校児童の解消と不登校傾向の児童数の減少 | ○福岡アクション3を実行し、児童のわずかな変化に気付くことができるよう、関係機関と連携し、組織で対応する。<br>○生徒指導の3つの機能(自己決定、共感的人間関係、自己存在感)を取り入れ、児童の自尊感情を育む学級経営 | ○学校生活アンケート：「登校意欲」<br>→項目平均1.0以上(上限1.5 下限-1.5)<br>○学校生活アンケート：「自己肯定感」<br>→項目平均1.0以上(上限1.5 下限-1.5)                     | 3           | ○登校意欲は向上してきた。<br>△SSW、SCと連携し組織で対応する体制はできたが、不登校児童の解消までは至らなかった。<br>○自己肯定感が上昇し、不登校児童数の減少につながった。                     | A       | ・学校の自己評価は適切である。<br>・SSWの活用による関係機関との連携が必要。<br>・多忙なか、教師がよく対応している。<br>・良い行為があった児童の家庭への連絡の取組はよい。家庭と連携していくことでより効果が出てくると思う。  | ・福岡アクション3の継続と家庭のアクション3の周知を徹底する。<br>・子供のよさを家庭へ連絡する取組を継続していく。<br>・生徒指導の3つの機能を位置づけた授業改善を行う。  |
|            | 働き方改革                 | ○学校閉庁時刻(19時)での退校及び定時退校日を設定する。<br>○水曜日の放課後の計画的な運用、3ヶ月スパンの行事予定提案による見通しと事前事後指導、個別のタイムマネジメントの指導による超過勤務削減         | ○教師評価：教育課程評価「タイムマネジメント力」の項目 平均2.5以上(4段階評定尺度)<br>○教師評価：教育課程評価「働きやすい職場」の項目 平均2.5以上(4段階評定尺度)<br>○毎月の超過勤務時間の平均 前年比、-10% | 3           | ○タイムマネジメント力は高まっている。<br>○退校時刻は早くなっている。<br>○教育活動に見通しはもてるようになってきた。<br>△経験の差があり、個々のタイムマネジメントへの指導が超過勤務時間の削減につながらなかった。 | A       | ・学校の自己評価は適切である。<br>・職員の意識向上には限界があるので、思い切った業務の削減が必要。水曜日定時退校日の徹底。<br>・水曜日の午後を活用するペースをつかんできたと思う。来年度は、今年の実践をもとにより効率的な時間の運用ができると思う。   | ・行事等は、前年度踏襲でなく、反省をもとに随時改善をしていく。<br>・3ヶ月スパンの取組を継続して行い、見直しをもって教育活動に取り組めるようにしていく。  |

◇ 評価について  
 ・【自己評価】 4：目標達成(90%以上) 3：ほぼ達成(70%~90%) 2：もう少し(60%~70%) 1：できていない(60%未満)  
 ・【学校関係者評価】 A：自己評価は適切である B：自己評価は上方修正すべきである C：自己評価は下方修正すべきである